

# 飼料用昆虫自動飼育システムの開発

世界的な魚粉価格の高騰や魚粉調達競争のなか、経営コストの6~7割を占め養殖経営を圧迫する飼餌料削減および安定供給のため、外国産魚粉の代替タンパク源としての昆虫利用促進を目指し、実用性に優れた飼料用昆虫自動飼育システムを開発する。



## 目的

世界の養殖生産量は過去20年間で約4倍に拡大し、今後とも成長する見通しである。我が国の養殖業成長産業化実現のため、生産・収益性向上に資する技術の一つとして、みどりの食料システム戦略にも合致する、飼料用昆虫自動飼育システムの開発・実証を通し、環境にやさしい持続可能な技術開発を実現したい。

## 方法

(株)エルムが開発したコンテナ型自動植物栽培システム「エコナーセリー®」を活用し、アメリカミズアブの幼虫自動飼育システムを開発する。大学・分析機関との連携によりタンパク質含有量等の栄養面を確保することはもちろん、養殖現場・飼料会社・漁業団体および研究機関とも連携し養殖魚の嗜好性を踏まえ食味等も考慮した実証を行う。

## 目標

既に国内外への導入事例を持つ栽培システムを活用して開発期間を短縮し、養殖ブリ生産量日本一を誇る鹿児島で関係機関に協力を仰ぎながら、2030年までには魚粉代替飼料原料としての昆虫タンパク質の地位確立を目指す。

